A 大学看護学部における「補完代替医療／療法」教育の意義

岡田 朱民，小山 敦代，糀谷 康子

基礎看護学講座

【目的】A 大学看護学部は，特徴の一つとして補完代替医療／療法（Complementary and Alternative Medicine/Therapies；以下 CAM/CAT）を導入しており，学びと課題について既に報告してきた．本研究目的は，CAM/CAT 教育の意義を明らかにすることである．
【方法】対象：5 期生 63 名．調査日：2014 年 3 月．方法：自記式質問紙の集合調査．内容：CAM/CAT への関心と満足感及び，大学で学んだ CAM/CAT．分析：データは単純集計し，記述内容は内容分析の手法に基づきカテゴリー化を行った．倫理的配慮：目的外使用禁止，匿名性の確保，回答の任意性の保証等を書面で説明し，回答をもって同意とした．所属大学倫理委員会の承認を得て実施した（受付番号 25-96）．
【結果】回収数：62 名（回収率：98.4%）．CAM/CAT は，80%以上が関心を持って学んでおり，その教育に満足していた．学んだ CAM/CAT で多かったのは,「灸」「鍼」「アロマセラピー」であり，臨地実習で実施したのは「マッサージ」「アロマセラピー」「指圧」が多かった．また，90%以上が卒後臨床で取り入れたいとし，資格取得を課題に挙げていた．
【結論】80%以上が CAM/CAT の教育に関心を持って学び，その教育に満足していることや，臨地実習において学んだ CAM/CAT を看護ケアに取り入れていることから教育の意義は大きいことが明らかになった．課題に挙げている資格については，2014 年度から統合医療評価認証機構認定アロマセラピーコース（選択）開設により，更なる期待ができる．
本研究は，第 18 回日本統合医療学会にて発表したものである．

看護学部カリキュラムに対する有用について
―看護学部卒業生の現状調査　その 5―

松岡 みどり，山下 八重子，三浦 康代

看護学部

京都府内では看護学部が次々と増設されている．本学は他大学と比べると立地条件で不利なことから，本学は何等かの対応が必要で他大学との差別化を図ることや，看護学部卒業生の動向調査の結果より，本学カリキュラムの有用な側面を探り，今後の方向性につなげる必要がある．アンケート結果より，約 6 割の卒業生は，本学の学びは看護現場で役立つと考えており，現場での本学の学びの有用性が示唆された．卒業生が具体的に学びのどの側面が，現場において役立つと考えられているのか調査結果は, 西洋医学と東洋医学が同時に学べるという意見が記載の約半数を占めていた．このことは他大学との差別化を図ると言う点で有利となる．看護学部開設当初から, 本学では西洋・東洋医学を統合した視点などを取り入れ,「東洋医学概論」と「東洋医学診断・治療学」を専門基礎科目に入れることで，理論・実践と系統だったカリキュラムを編成している．

従来，看護学は西洋医学をベースとして学ぶが，看護師が行う日々の看護実践の中には，患者中心の看護，自然治癒力，全人的医療の考え方，そして疾病予防や個別性の重要性など東洋医学との接点も多い．これらのことから今回の調査結果が得られたと推察することができる．